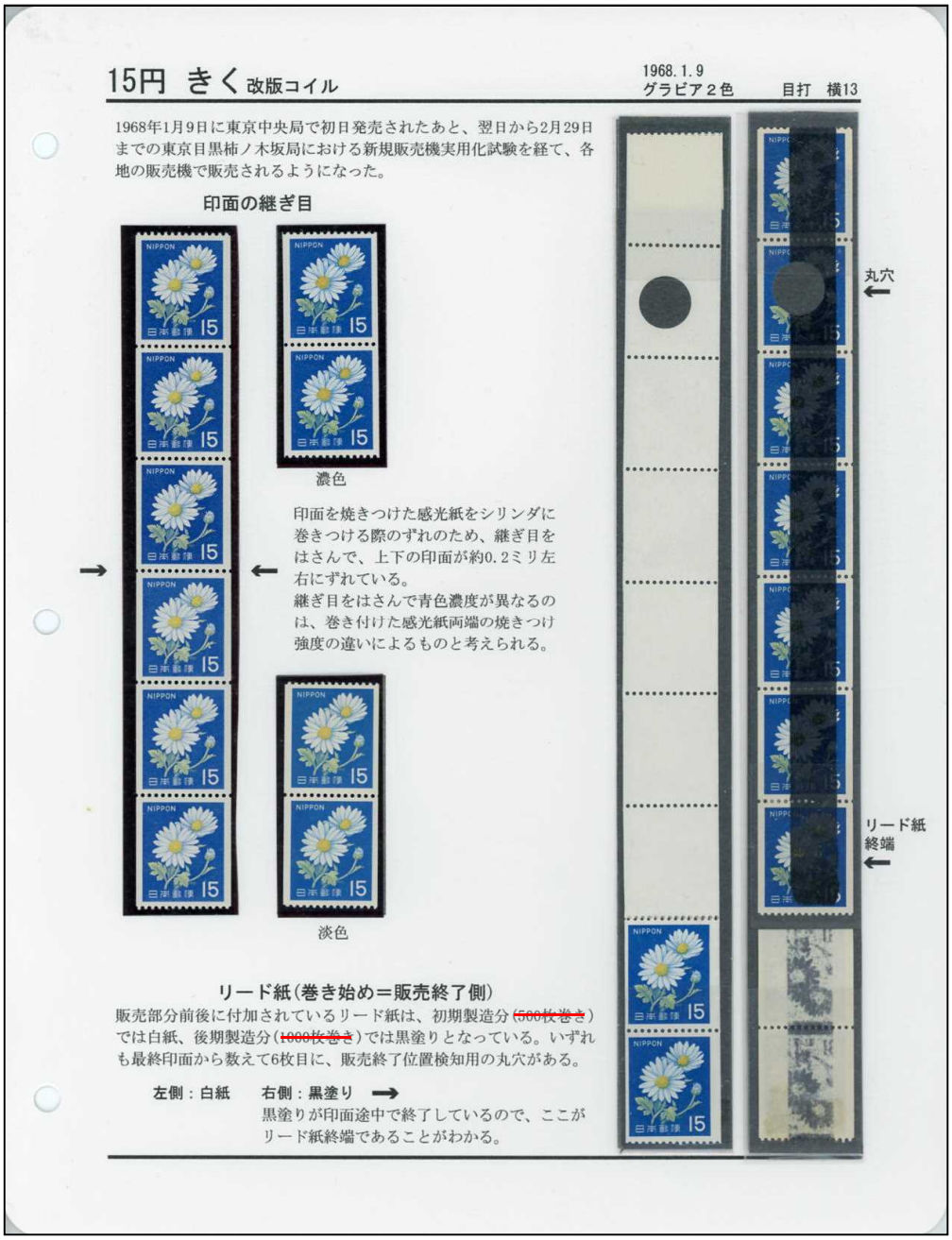
コイル切手の製造面を整理したリーフ

永吉 秀夫

会報 286 号で紹介した「15 円きくコイル」のリード紙違いを、リーフに整理してみました。2 つ折りにして透明フィルムで包み、両面テープでリーフに貼りつけてあります。黒塗りの方にも未使用切手がついていてほしいですが、裏面にまでしみ通ったマジックインキの様を見せるのも有意義です。リード紙違いのほか、詳細に調べないとわからないバラエティですが、「実用版の継ぎ目」を表現してみました。詳しくはリーフの書き込みにて(読めますでしょうか?)。(訂正あり→赤線)



関連品として、次の時代の「20 円まつコイル」にも存在するバラエティを紹介しておきます。このコイル切手のリード紙は黒塗りのみですが、販売終了位置を検知するための「丸穴」位置にバラエティがあります。封書 20 円時期に製造されたものでは黒塗り 6 枚目に丸穴があるのに対し、封書 50 円時期に製造されたものは 1 枚目に丸穴があります。後者は 1979 年に開発された新販売機用に製造された分です。詳細は省略しますが、この仕様変更には必然的な理由があります。新販売機では 10 枚までの切手を一操作で買えるようになったことと関連しています。

高倍率のルーペで調べなければわかりませんが、これら２時代の切手にはグラビアスクリーンの線数にも違いがあります(初期 230 線、後期 250 線)。リーフで表現するのは難しいですが...。